

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

日本語においては、僕、おれ、おのれ、わし、おいら、てまえ、自分、わたし、わたくし、あたし、うち等々、一人称代名詞のかなり使用ヒンド<sup>a</sup>の高いものだけでも十指に（あ）。しかも、これらの代名詞は、日常の自然な会話においてはむしろ省略されることの方が多いし、省略された場合にこれに代わって会話の主体<sup>a</sup>を明示しよう<sup>i</sup>ような動詞、助動詞の人称変化も存在しない。自己に関することを述べる際に特に用いる動詞、助動詞や助詞というものはあるが、これとても話し手と聞き手の身分の違いや親密度にかかわる相対関係<sup>b</sup>からの影響によって、より多く左右される。Can I help you? に相当する日本語を、思いつくままにラレツ<sup>b</sup>してみよう<sup>ii</sup>。「（私が）いたしましょうか」、「（私が）やってみましょうか」、「（ぼくが）やってあげようか」、「（おれが）やってやろうか」等々である。

二人称代名詞を取ってみても、西洋各国語には原則として二種類（現代英語ではユーの一種類）である。ドイツ語のドゥーとジーおよびフランス語のテュとヴの用法には、互いに微妙な相違があつて、必ずしも同じ方式にあてはめられない場合もあるが、一応、自分との心理的距離が減少する方向にある相手に対してはドゥーおよびテュ、心理的距離の減少しない相手に対してはジーおよびヴが用いられる、と解して差支<sup>c</sup>えない。だから、ジーとヴが「あなた」に相当する敬語的代名詞、ドゥーとテュが「お前」に相当する卑語的代名詞とする考え方は間違っているし、ドゥーを「汝<sup>なんじ</sup>」に置きかえて、「イツヒ・ウント・ドゥー」というマルティン・ブーバーの著書を「我と汝<sup>A</sup>」と訳したのは、苦肉の策<sup>A</sup>ではあつても、正しい訳とは言えない。

② これに対して、日本語の二人称代名詞は、一人称代名詞と同様に数も多く、また自然な日常会話においては、一人称よりもさらに省略されがちである。そもそも、さきにも述べたように、日本人は一般に二人称代名詞を使いたがらない傾向があり、これは特に目上の相手に対して著しい。妻が夫に対して用いる「あなた」は別として、一般に敬語的に考えられている「あなた」、「貴殿」、「貴下」なども、実際にそれを口に出して用いようるのは、対等以下の相手に対する場合に限られる。もし、父母に対し、恩師に対して「あなた」という代名詞を用いた<sup>iv</sup>ならば、それはもはやその関係が事実上

I していることを意味するのである。このようなことは、西洋人にはまったく理解しえないことに違いない。

II

日本語の二人称代名詞としては、その他、「お前」、「君」、「てまえ」、「貴様」、「そこもと」などが挙げられるだろうが、これらもすべて相手を低く見た卑称であることに注意しなくてはならない。二人称代名詞の省略については、もはや例を挙げるまでもないだろう。Do you go? に対して「いらっしゃいますか」、「行きますか」、「行くかい」、「行くの」、「行くのか」等々、各種の言い廻しがあるが、あとの三つについては、比較的 naturally 「君」、「お前」というような卑称の二人称代名詞を付加することができる。

さて、われわれの議論の <sup>d</sup> ショウテン は、人称代名詞と人格的 <sup>B</sup> アイデンティティの関連という問題であった。西洋各国語においては一人称代名詞はそれぞれ一語しかなく、二人称代名詞は二語あるが、その使いわけはかなり客観的に規定可能である。しかも、それらの人称代名詞は原則的に省略されえないから、西洋人にとっては、人称代名詞を用いることなしに会話するということは考えられないことである。西洋の幼児は、日本の幼児よりもはるかに早く、一人称代名詞を身につける。それと同時に、二人称代名詞（幼児にとって話し相手はまず第一に家族であるから、ドイツ語の場合はドウー、フランス語の場合はテュ）も自然に身につくようになっていく。ドイツ語のジー、フランス語のヴが、よその大人の人に対して用いられる言葉だということは、小学校に入学するころにはじめて教えられる。しかし、子供にとっては、それまでに身につけているドウーやテュをジーやヴに置きかえるだけのことであるし、それにジーやヴの動詞変化はきわめて簡単なので、子供はこの用法を何の（い）もなく身につける。

一人称代名詞が例えばアイの一語だけであるということは、自分というものが、いついかなる事情においても、不変の一人者としての自我でありつづけるということを意味している。自己が自己であるということは、いわば既定<sup>e</sup>の事実なのであって、いっさいの言語的表現に先立って決定している。思想というものが、言語を（たとえ内的言語の形ではあれ）予想せずには不可能である以上、このことはまた、自己が不変の自己同一的な自己であるということが、いっさいの思考に先立って既定の事実として前提されていることを意味する。

（木村敏『人と人との間』より）

※卑称：他人、およびその動作・状態をいやしめて呼ぶ表現。

問一 ……線部 a のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで記しなさい。

問二 ……線部  $\alpha$ 、 $\beta$  の語句の対義語を漢字で記しなさい。

問三 ……線部 A、B の語句の意味として適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 苦肉の策

ア 皮肉な思いを込めて考えた手立て。

イ 苦しまざれで考え出した手立て。

ウ 苦々しく思いながらも仕方なく用いた手立て。

エ 苦心して考えついたすばらしい手立て。

B アイデンティティー

ア 自分が独自性を持った、他ならぬ自分であるという感覚。

イ ある時代・社会の人々に共通されている、支配的なものの見方・考え方。

ウ 自分だけの利益・幸福を求めて、他人の立場を考えない態度。

エ 考えや気持ちを伝え合うこと。

問四 ……線部 i、v の助動詞の意味を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 受身      イ 丁寧      ウ 打ち消し      エ 存続      オ 意志

カ 可能      キ 推量      ク 不確かな断定      ケ 比況      コ 伝聞

問五 空欄あ・いに入る適当な語句を解答用紙の字数にあわせて記しなさい。

問六 空欄Ⅰに入る適当な語句を次から選び、記号で答えなさい。

ア 逆転      イ 断絶      ウ 優越      エ 継続

問七 空欄Ⅱに入る一文として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 西洋においては、まずもって二人称代名詞で名指されるのは、友人であり、仲間や同僚であるだろうからである。  
 イ 西洋においては、まずもって二人称代名詞で名指されるのは、弟妹であり、後輩や部下であるだろうからである。  
 ウ 西洋においては、まずもって二人称代名詞で名指されるのは、親であり、兄や姉であるだろうからである。  
 エ 西洋においては、まずもって二人称代名詞で名指されるのは、両親であり、恩師や上司であるだろうからである。

問八 ——線部①「正しい訳とは言えない」とありますが、それは何故ですか、理由を説明しなさい。

問九 ——線部②「これ」の指示する内容として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本語の一人称代名詞  
 イ 西洋各国語の一人称代名詞  
 ウ ドイツ語・フランス語の二人称代名詞  
 エ 英語の二人称代名詞

問十 ——線部③「その使いわけはかなり客観的に規定可能である」とありますが、二人称の使いわけについて記されている一文を本文中から探し、最初と最後の五文字をそれぞれ記しなさい。(句読点を含む)

問十一 日本語の一人称が複数あるのは何故だと考えられますか、筆者の意見をもとに説明しなさい。

二、次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文には使い方が間違っている同じ読みの漢字が一字あります。解答用紙の上に誤字を、下に正しい漢字を記しなさい。

- ① 教室内の営膳について、生徒と話し合う。
- ② 絵画の鑑賞が私にとって最高の悦落だ。
- ③ 徳実な人柄で慕われている先輩の転勤。
- ④ 自動券売器で切符を買う。

問二 次の表の空欄に入る敬語動詞を記しなさい。

普通 の 言 い 方	尊 敬 語	謙 讓 語
言 う	①	申 す ・ 申 し 上 げ る
見 る	ご 覧 に な る	②
行 く	い ら っ し や る	③
食 べ る	④	⑤
聞 く	お 聞 き に な る	⑥
す る	⑦	い た す

受験番号	氏名	採点
------	----	----

問一	a	e	問二	α	β	問三	A	B	問四	i	v	問五	あ	い	問六		問七		問八		問九		問十		問十一	
	b								ii																	
	c								iii																	
	之								iv																	
	d																									

問一	①	③	問二	①	⑤
	②			②	⑥
	④			③	⑦
	②			④	
				⑦	

受験番号	氏名	採点
------	----	----

問一	a	頻度	きてい	問二	a	客體	問三	A	イ	問四	i	ク	カ	問五	あ	余る	問六	イ	問七	ウ	問八	ドイツ語の「ドゥー」は、自分との心理距離が減少する方向にある相手（親しい相手）に用いる言葉であるのに、その日本語訳が「汝」という親しい人には用いず対等以下の相手に用いる言葉であるから。		問九	ウ	問十	ドイツ語の 「 支 え ない。」	問十一	日本語では自身の立場が、身分の違いや親密度といった様々な相対関係からの影響によって左右され、変化するから。	
----	---	----	-----	----	---	----	----	---	---	----	---	---	---	----	---	----	----	---	----	---	----	--	--	----	---	----	------------------------------	-----	---	--

問一	a	頻度	きてい	問二	a	客體	問三	A	イ	問四	i	ク	カ	問五	あ	余る	問六	イ	問七	ウ	問八	ドイツ語の「ドゥー」は、自分との心理距離が減少する方向にある相手（親しい相手）に用いる言葉であるのに、その日本語訳が「汝」という親しい人には用いず対等以下の相手に用いる言葉であるから。		問九	ウ	問十	ドイツ語の 「 支 え ない。」	問十一	日本語では自身の立場が、身分の違いや親密度といった様々な相対関係からの影響によって左右され、変化するから。	
----	---	----	-----	----	---	----	----	---	---	----	---	---	---	----	---	----	----	---	----	---	----	--	--	----	---	----	------------------------------	-----	---	--

問一	a	頻度	きてい	問二	a	客體	問三	A	イ	問四	i	ク	カ	問五	あ	余る	問六	イ	問七	ウ	問八	ドイツ語の「ドゥー」は、自分との心理距離が減少する方向にある相手（親しい相手）に用いる言葉であるのに、その日本語訳が「汝」という親しい人には用いず対等以下の相手に用いる言葉であるから。		問九	ウ	問十	ドイツ語の 「 支 え ない。」	問十一	日本語では自身の立場が、身分の違いや親密度といった様々な相対関係からの影響によって左右され、変化するから。	
----	---	----	-----	----	---	----	----	---	---	----	---	---	---	----	---	----	----	---	----	---	----	--	--	----	---	----	------------------------------	-----	---	--

問一	a	頻度	きてい	問二	a	客體	問三	A	イ	問四	i	ク	カ	問五	あ	余る	問六	イ	問七	ウ	問八	ドイツ語の「ドゥー」は、自分との心理距離が減少する方向にある相手（親しい相手）に用いる言葉であるのに、その日本語訳が「汝」という親しい人には用いず対等以下の相手に用いる言葉であるから。		問九	ウ	問十	ドイツ語の 「 支 え ない。」	問十一	日本語では自身の立場が、身分の違いや親密度といった様々な相対関係からの影響によって左右され、変化するから。	
----	---	----	-----	----	---	----	----	---	---	----	---	---	---	----	---	----	----	---	----	---	----	--	--	----	---	----	------------------------------	-----	---	--

問一	①	膳	①	膳	問二	①	おっしゃる	②	拝見する	③	参る・うかがう	④	召し上がる	⑤	いただく	⑥	伺う・承る・拝聴する	⑦	なざる・あそぼす
----	---	---	---	---	----	---	-------	---	------	---	---------	---	-------	---	------	---	------------	---	----------

一：問八・問十一は各5点、それ以外は各3点。二：全て各2点

